

11. 心奇形を伴った肺リンパ管拡張症の2剖検例

足立 孝 (第1病理兼第1外科)

豊田 智里・寺岡 邦彦・金田 良夫・武石 詢 (第1病理)

都 もと子 (母子センター)

里見 元義 (心研小児科)

新田 澄郎 (第1外科)

2:55~3:25 武石 詢

ことばと病理

梶田 昭 (第2病理)

3:25~3:30 閉会の辞 豊田 智里

1. Intramedullary hemangiopericytoma の1症例

(脳神経外科)

氏家 弘・加川 瑞夫・河村 弘庸・久保 長生・喜多村孝一

胸髄膜内に発生した hemangiopericytoma の神経放射線学的所見, 手術所見そして電顕像を含む病理所見について報告した。

症例は39歳の男性で, 約1年前より進行性の右下肢に強い運動感覚障害で発症した。

神経放射線学的検査では, gadolinium-DATA を使用した enhanced MRI が最も有力であり, 境界鮮明な著明に enhance された腫瘍像, 腫大した脊髄, 正常な周辺組織が描出された。手術によって灰赤色の易出血性の腫瘍塊が, 脊髄横断面で髄内の約90%を占めることを確認し, 腫瘍の亜全摘術を行なった。病理像では, 腫瘍組織は極めて血管に富んだ, ところどころ mitosis を伴った紡錘形細胞から構成され, Ag 染色で腫瘍細胞を囲むように reticular fiber の network を認めた。PAN 染色によっても同様の所見が得られ, 血管内膜の肥厚は認めなかった。また電顕像では, 腫瘍細胞間には, 明らかな interdigitation は認めなかった。

2. 正常ラット第3仙髄後根に認められた onion-bulb 形成

(神経内科) 山本 健詞・丸山 勝一

(産業医科大学神経内科) 大西 晃生

正常ラットの第3仙髄後根に onion-bulb を認め, 稀な所見であるので報告しその形成機序について考察した。(方法)形態, 運動に異常のない8カ月齢, 雌の経産 SD ラットを灌流固定後胸髄から尾髄の各神経根と後根神経節および胫骨, 腓骨, 腓腹の各神経とその分枝を採取, エポン標本を作成し光顕, 電顕下に観察し

た。(結果)右第3仙髄後根に限局してその全長にわたり根中央部に巣状に有髄線維密度の低下と発達した onion-bulb の集合を認めた。第3仙髄後根神経節内有髄線維にも onion-bulb を認めたが, 後根神経節神経細胞には異常を認めなかった。(考察)onion-bulb の形成機序として頻回の妊娠出産による神経根の虚血と脊柱管, 椎間孔や根動脈の異常を推定した。

3. 卵巣腫瘍組織中性ステロイドの免疫組織化学的研究

(産婦人科)

稲生由紀子・磯野 聡子・戸口 美子・

滝沢 憲・武田 佳彦

(病院病理科) 桜田 実・平山 章

卵巣類内膜癌は組織学的には子宮膜癌と類似し, 臨床的には不正出血など性ホルモン機能異常を高率に示す。今回私達は卵巣類内膜癌の性ステロイド産生能を検討するために腫瘍組織中の estradiol (E_2), progesterone (P), testosterone (T) を免疫組織染色 (PAP法)し, また組織中の estrogen receptor (ER), progesterone receptor (PR) を DCC 法にて測定した。PAP法は抗ヒト E_2 , P, T ウサギ抗体を一次抗体として用い DAB で発色させた。正常卵巣では黄体, 白体が E_2 , P, T 陽性, 顆粒膜細胞腫では腫瘍細胞が E_2 , P 陽性, 男性腫瘍では腫瘍細胞が E_2 , P, T 陽性, 類内膜癌7例では腫瘍細胞陽性例は E_2 1例, P 3例, T 4例であり間質細胞陽性例は E_2 5例, P 6例, T 3例であった。間質中 P, T が陽性であった類内膜癌症例の腫瘍組織中 receptor は, ER 202fmol/mg, PR 1,000fmol/mg と多量であった。類内膜癌間質中の性ステロイドと腫瘍細胞中の ER, PR が interaction している可能性が示唆された。

4. 原発巣不明の転移性皮膚癌の1例

(皮膚科)